なかがわ　ともこ
中川　知子さん

医療法人社団博愛会開西病院　看護介護部西3病棟　科長（看護師）

1972年生まれ、帯広市出身。看護学校卒業後、地元の総合病院に就職。3年間勤務した後、結婚を機に現病院に転職。一男一女の子育てをしながら、一般病棟、療養病棟を経て、2014年に、看護科長となり、スタッフ約30名を率いている。

患者様に心地よい場所を提供したい

きっかけ

小学生ぐらいの頃から漠然と看護師になりたいと思っていました。看護学校を卒業してから 3 年間、地元の総合病院で経験を積み、結婚。子育てをしながら働きやすい職場に移りたいと考え、院内託児所を備えていた開西病院に転職しました。こういった環境もあり、職場内で産休・育休を取得し、長女の病気で育休を延長した時にも自然に受け入れてもらえました。託児所は今では院内保育所に変わり、子どもを預ける場所から子どもを育て、職場全体で見守る場所になっています。子育てをしながら働くことが当たり前で、環境も良く、辞めようと思ったことはありません。

満足度

看護師という仕事の一番のやりがいは、患者さんと、医師や看護師などの医療スタッフとの日々の関わりの中で、人を敬う気持ちを持てたり、人として成長しているという実感を持てるところです。患者さんは体に痛みを抱え、当然心にも痛みを抱えています。そういった方々に心地良い場所を提供したいと思っています。また、この仕事は、患者さんだけでなく、患者さんの家族や仕事など、患者さんの持つ背景、人生そのものに向き合う仕事だと思います。そういった背景を考えて向き合うことが、痛みを抱えた患者さんのためになると思うのです。

苦労

今が一番大変だと思っています。病棟を担当する看護科長になる前の係長だった時は科長に頼っていたんだなと今になって思います。なってみて科長の大変さが分かりました。責任を負わなくてはならないという立場はやはりプレッシャーがあります。うまく判断できなかったなあと思うことも多いですが、自分一人で全員を見ているわけではなく、係長以下スタッフ全員の協力もあり、がんばることが出来ています。また、子どもが幼かった頃は、夫の両親の協力もあって乗り越えられましたが、まだまだ子どもにも手をかけてあげたいという思いもあるので、これからも仕事と子育ての両立をしていきたいと思っています。

これから

明確な目標みたいなものはないんです。今で精一杯(笑)。その時その時一生懸命やることでしょうか。ただ、科長として 30 人のスタッフと患者さんを預かる身です。責任は当然重いのですが、スタッフには伸び伸びと働いて欲しいと思っています。職場では、スタッフ誰もが話しやすい環境作りを心がけています。恐れられるような存在になると、ちょっとしたことも言いにくくなって、それが大事に至ることがありますから。支えてくれているスタッフや家族、そして患者さんのためにもまだまだ頑張っていきたいと思います。

医療現場では、女性スタッフが多く、子育てしながらこうして働き続けていけるのも、他のスタッフの協力や男性スタッフの理解があってのことと思います。互いに感謝の気持ちを持つことが大切ですね。